

「ふくい若者チャレンジクラブ 三重交流ミッション」

(福井県と三重県の若者交流事業)

報告書



平成25年9月28日(土)～29日(日)

- 第1 目 的 「ふるさと知事ネットワーク」を通じて、福井県とつながりがある三重県に、本県の若者グループが出向き、三重県の若者グループと交流を行うことにより、それぞれの今後の活動の発展に資する。
- 第2 ね ら い
- ・三重県の若者グループと活動上の課題とその対応について議論し、今後の活動に活かす。
 - ・両県の産業、暮らし、文化、観光の相互紹介などの交流を行い、相互の理解と交流拡大につなげる。
 - ・facebook 等を活用した日常的な情報交換、意見交換を行うことができるよう調整し、今後の継続的な交流につなげる
- 第3 期 日 平成25年9月28日（土）～29日（日）
- 第4 関係機関 三重県戦略企画部企画課
福井県総務部男女参画・県民活動課
- 第5 参加者 ふくい若者チャレンジクラブメンバー 22人



第6 日程表

日	時間	内 容
28日 (土)	7:30～12:00	福井合同庁舎駐車場にて結団式後バス発 三重県伊勢市着
	12:00～13:00	外宮視察
	13:00～16:00	地域主導による外宮参道の活性化の取組の講演と現地視察 (場所：伊勢神宮外宮参道) 【講師】 外宮参道発展会 会長 山本武士 氏 ・外宮参道発展会 会長 山本武士氏による講演およびフィールドワークを通じて、地域住民が主体となった活性化や魅力発信などについて学ぶ。
	16:00～18:30	三重と福井の若者グループの意見交換 (場所：いせ市民活動センター) 【進行】 特定非営利活動法人 いせコンビニネット 事業部長 浦田宗昭 氏 ・福井県の特徴の紹介とPR (産業、暮らし、文化、観光等) ・参加者間での活動紹介 (活動内容、団体の概要、活動のきっかけ) ・グループワークを行い、活動での共通課題等について意見交換を実施
19:00～20:30	三重と福井の若者交流会 (場所：勾玉亭 (まがたまてい)) ・三重県産の食材を使用した地産地消型レストランにおいて地元製品の発信手法を学ぶとともに、参加者間での一層の交流を深める。	
29日 (日)	7:00～ 9:15	内宮見学、朝食等
	9:30～10:30	企業経営手法によるまちづくりの先進事例の講演と現地視察 <講演> (場所：五十鈴塾、おかげ横丁) 【講師】 有限会社伊勢福 代表取締役社長 橋川 史宏 氏 ・「おかげ横丁」を運営する有限会社伊勢福の代表取締役社長から、まち並みの工夫、集客のための仕掛けづくり、商品開発などについて、話を聞き、意見交換
	10:30～12:30	<現地視察> ・江戸後期から明治初期の風情を再現したまち並みの視察
	13:00～15:00	まちの賑わい創出についての意見交換 (場所：皇學館大学内) ・伊勢市内の中心的な商店街である「新道 (しんみち) 商店街」や外宮参道の活性化活動に取り組む若者グループとの意見交換
16:30～17:15	石垣英一三重県副知事との意見交換 (場所：三重県庁) ・福井の若者グループから今回の交流事業での気づきや刺激をうけたことなどについて意見交換	
17:15～21:00	三重県庁バス発 福井県着	

第7 概要報告

◆第1日目 9月28日(土)

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| ・ 7:30～12:00 | 結団式後、福井合同庁舎発 |
| ・ 12:00～13:00 | 外宮視察 |
| ・ 13:00～16:00 | 外宮参道発展会 会長 山本 武士 氏の講演とフィールドワーク |
| ・ 16:00～18:30 | 三重と福井の若者グループの意見交換 |
| ・ 19:00～20:30 | 三重と福井の若者交流会 |

1 結 団 式

場所：福井合同庁舎

○「激励の言葉」 江端美喜子 県男女参画・県民活動課長

- ・ 今回の三重県との若者交流事業は、山形県との若者交流事業に続く第2弾となる。交流する三重県の若者とは、活動するうえでの悩みや課題について意見交換を行い、今後の活動の参考にしてほしい。
- ・ 福井の暮らしや文化の特徴、福井県立恐竜博物館などの観光地や食を大いにPRしてほしい。また、三重県の若者に福井をPRするために、改めて福井の暮らし等について考えることで、福井の魅力を再発見してもらいたい。

○「決意表明」 青池彩百合

- ・ 今回の交流事業では、三重県の皆さんに、福井の魅力をPRするとともに、2日間の交流を通じて出会う方々から、多くを学び、体験してくる。
- ・ 三重県の若者と交流できる貴重な機会を作っていただいた皆様に感謝する。



結団式



参加者との記念撮影

2 外宮参道発展会 会長 山本武士 氏の講演とフィールドワーク 場所：いせ市民活動センター

- ・ 山本武士氏による講演とフィールドワークを通じて、地域住民が主体となった活性化や魅力発信などについて学んだ。
- ・ 外宮参道発展会は、平成15年に立ち上げた外宮門前町のまちづくりに特化した団体で、ソフト事業を中心に活動している。
- ・ 昭和40年以降、内宮へのアクセス道路の整備とモータリゼーションの進行により、内宮への参拝者が急増し、外宮への参拝者が減っていった。

- ・外宮参道発展会では、景観の勉強会や外宮についての講演会、外宮さんちびっ子博士グランプリの開催、手荷物預かりサービスの実施、バーチャルリアリティによるワークショップなどを開催している。
- ・私のモットーは、「知って」「感じて」「行動する」である。地元のことを知り、こんなに良いところがあるんだと感じ、自分はこれならできると考え行動することが大切である。
- ・地域の活性化とは、地域の中で活動している人の世代交代を進めていき、人材の新陳代謝を行っていくこと。
- ・「まちづくりは人づくり」とよく言われるが、それに加えて「誇りづくり」だとも言える。自分達のまちにどれだけ誇りを持てるかが、まちづくりにとって大切だと思っている。
- ・講演の後は、講師による案内のもと、フィールドワークとして外宮参道の現地視察を行った。



山本武士 氏の講演



山本武士 氏による外宮参道の案内

3 三重と福井の若者グループの意見交換

場所：いせ市民活動センター

参加者数：福井の若者19人、三重の若者17人

(1) 概要

- ・ふくい若者チャレンジクラブの横井役員からクラブの活動紹介と、ふくい若者チャレンジクラブメンバーの青池さんから福井県の観光PRを行った。その後、いせコンビニネット事業部長 浦田さんの司会進行のもと、6つのグループに分かれ、次の2つのテーマについて意見交換を実施
 - ①日ごろの活動における困りごと
 - ②解決策の検討および両県での若者間の連携を考える。

(2) 意見交換の内容

ア「日ごろの活動における困りごと」について

- ・主に次のような意見が出された。
 - ① 人 参加者が少ない。専門性のある方がいない。世代を超えたつながりがない。地域の人と参加者に意識の差がある。モチベーションの維持が難しい。学生の場合、後輩への引継が難しい。
 - ② 広報 情報の発信力が弱い。活動が知られていない。情報収集力が弱い。
 - ③ 時間 参加者同士の集まる時間が合わない。仕事との両立が難しい。
 - ④ 資金 お金がない。行政からの助成がない。
 - ⑤その他 イベントが目的化している。イベントを通して達成しようとする目的を忘れてしまい、目的と手段を取り違えてしまうことがある。

イ「解決策の検討および両県での若者間の連携を考える」について

○解決策の検討

- ① 人 お互いに知りあうことが大事。人と人をつなげるための仕掛けが必要。地域の人をいかに巻き込むかが大事。メンバーや地域の方と思いを共有し、長い時間を共有する。
- ② 広報 Facebook 等 SNS を活用する。SNS を活用できることが若者の強みだと思う。フェイス・トゥ・フェイスの関係をもつことも大事。メディアとのつながりを持つ。
- ③ 時間 SNS やネットを活用し、離れていても話し合えるようにする。
- ④ 資金 行政からの助成に頼るのではなく、活動に対する熱意がある人が、自主的に資金を集めることも大事。
- ⑤その他 最終的な目標を明確にもつことが大切である。

○両県での若者間の連携方法についての提案

- ・今回のような取組を継続して、お互いに刺激し合いたい。
- ・人が集まり交流できる拠点をつくり、時間をかけて両者を知ることで、人と人のネットワークをつなげる。
- ・両県で実践的な勉強会を行う。
- ・フェイスブックを活用し、さらに共通課題を議論していく。



各グループでの意見交換



各グループの発表

◆第2日目 9月29日(日)

7:00～9:15	内宮見学、朝食等
9:30～10:30	有限会社伊勢福 代表取締役社長 橋川 史宏 氏による講演
10:30～12:30	おかげ横丁の現地視察
13:00～15:00	まちの賑わい創出についての意見交換
16:30～17:15	石垣英一三重県副知事との意見交換
17:15～21:00	三重県庁バス発、福井県着

- 1 有限会社伊勢福 代表取締役社長 橋川 史宏 氏による講演 場所：五十鈴塾
- ・「おかげ横丁」を運営する有限会社 伊勢福の代表取締役社長 橋川 史宏 氏から、まち並みの工夫、集客のための仕掛けづくり、商品開発などについての講演を受けた。

- ・伊勢神宮の内宮門前町「おはらい町」は、昭和50年代から衰退する傾向にあった。そこで、「おはらい町」の活性化を図るため、平成5年7月から、総事業費140億円をかけて、「おはらい町」の中心部に「おかげ横丁」を整備した。
- ・三重県内の建物調査をした上で、おかげ横丁の雰囲気にもふさわしい建物を選定。例えば、津市に残っていた大正時代の郵便局を購入し移築
- ・おかげ横丁に置く商品は、三重県内の産品調査をした上で、品質に優れ、おかげ横丁の雰囲気に合うものを選定している。
- ・おかげ横丁のコンセプトは、伊勢の文化を紹介し、参拝者をおもてなしする場。伝統的なまち並み、本物の商品とサービス、おもてなしの精神を大切に、月日が経つにつれて魅力が増していくようなまちづくりを目指している。



橋川史宏 氏の講演



橋川史宏 氏の講演

2 まちの賑わい創出についての意見交換

場所：皇學館大学

参加者数：福井の若者20人、三重の若者10人

(1) 皇學館大学筒井ゼミの学生から、新道商店街と連携した地域活動の紹介

- ・皇學館大学現代日本社会学部の筒井教授と藤井准教授、地域社会研究会の学生の皆さんは、伊勢市内の新道商店街の活性化に向けた取組をされており、皇學館大学の学生代表から、活動の一例の紹介を受けた。
- ・筒井ゼミでは、商店街の賑わいを創出するとともに、東日本大震災復興支援の義援金を集めるため、新道商店街の祭り「伊勢の夜祭」で、岩手県山田町の特産品「山田の醤油」を使った焼きトウモロコシと焼きイカ、伊勢の名物「伊勢うどん」の麺に海鮮カレーをかけた新味知カレーうどんを、昨年と今年の2回販売した。
- ・採算性に留意しながら出店したという説明を受けた。

(2) 5つのグループに分かれ、次の2つのテーマについて意見交換を実施

- ①これまでの活動を通じて考える大学連携の効果
- ②大学連携を一層促進するための課題

ア「これまでの活動を通じて考える大学連携の効果」について

○学生にとってのメリット

- ・授業では学ぶことができない経験ができる。専攻以外の分野での知識や経験が得られる。
- ・就職時、就職後など将来に経験が生かせる。

- ・ 社会人からは、資金面など学生が弱い部分の支援を得られる。

○地域にとってのメリット

- ・ 若い感性を生かしたアイデアがもらえる。情報発信（フェイスブックなど）の面で協力してもらえる。
- ・ 地域の団体や個人間のパイプ役を学生が担ってくれる。
- ・ 社会人にとっては、学生の若さや明るさが活動に対する活力となる。
- ・ 平日は活動しにくい社会人の穴を埋めてくれる。
- ・ 大学等が有する知的資源にアクセスできる。

○双方にとってのメリット

- ・ 学校、地域・企業の双方の社会的信用があがる。学校にとっては入学生の確保、地域にとっては活動の自信につながる。また企業にとっては社会的信用が高まることで取引の拡大等に期待が持てる。

イ「大学連携を一層促進していくための課題」について

- ・ 地域の人と学生の想いにギャップがある。価値観の違い、世代間ギャップなど
- ・ 学生が便利屋的に動きすぎて、もともと何をを目指していたのか分からなくなる。
- ・ 学生はいつか卒業してしまうので、活動を継承させることが課題
- ・ 学生にはルールを越えた自由な提案をしてほしい。
- ・ 学生と繋がる場所がない。つながる方法がわからない。



各グループでの意見交換



各グループの発表

3 石垣 英一 三重県副知事との意見交換

場所：三重県庁

石垣 英一 三重県副知事とふくい若者チャレンジクラブメンバーが、2日間の行程を通じた感想について意見交換を行った後、副知事から参加者へ5つのメッセージをいただいた。

(1) ふくい若者チャレンジクラブメンバー参加者からの感想

- ・ 20年毎の式年遷宮や、それを支える地域の方のお話を聞いて、歴史をつなげていくことの大切さを実感した。神宮には独特の雰囲気があるが、それは地元の皆さんの想いが創っているのだと思った。
- ・ おかげ横丁を散策した際に、紙芝居を子供が楽しそうに見ていた。あのわくわくするような楽しさを、自分のまちにもつくっていきたいと思った。
- ・ 初めて伊勢を訪れて「日本人としての在り方」のようなものを強く感じた。
- ・ 景観が大切にされており、おもてなしの心を視覚を通じて感じる事ができた。

(2) 石垣 英一 三重県副知事からは、三重県と福井県の共通性やつながりについてのお話とともに、次のような5つのメッセージをいただいた。

①「エンピツ型人間」

・芯はしっかり、周りに気を遣える人になって欲しい。

②「ATM型人間」

・A：明るく、T：楽しく、M：前向きになって欲しい。

③「人生における3つの坂」

・上り坂、下り坂、まさかのいずれにも対処できるようになって欲しい。

④「夢は叶う」

・“叶”は“口(クチ)”に“+ (プラス)”と読む。苦しい場面に直面した時でも前向きな言葉を発していれば、自分の思いは叶う。

⑤「発憤力」

・二宮尊徳は「畑に種をまき、芽が出るようにいくら頑張っても、自らが育とうという気力が無いものは芽を出すことができない。発憤力こそ人生をひらく源である。」と言っている。みなさんも、気概をもって自分達の活動を実行してもらいたい。



石垣 英一 副知事との意見交換



副知事とともに記念撮影

第8 参加者の感想・意見

[1日目]

1 山本外宮参道発展会会長の講演とフィールドワーク

- ・まちづくりの主役には、そこで暮らす人々だけがなれる。自分たちでやるのが重要であり、誰かがやってくれるのではないと改めて気づいた。
- ・地域の活性化は、机上ではなく、現場に足を運び、お店や訪問者の声を聞き、オリジナルのアイデアを生み出し形にするものだと学んだ。
- ・「まず地域を知ることから始め、誰かにやってもらうのではなく、自らやってみることが大切」という話に共感した。福井においても、その伝統や歴史についても一度学び直すと、福井の魅力を再発見できるかもしれないと思った。

2 三重県の若者グループとの意見交換

- ・様々な年齢、職種、学生の方と意見交換できたことは、とても貴重な時間だった。
- ・今回の意見交換会をきっかけとして、お互いのことをもっと知り、フェイスブック等の SNS を利用しながら、今後も三重県の若者とのつながりを持ち続けていきたい。
- ・三重県の若者の、伊勢に対する思いや知識の深さに驚き、自分もまだまだ福井のことを知らなければいけないと感じた。

[2日目]

1 有限会社伊勢福 橋川 史宏 代表取締役社長の講演

- ・おかげ横丁のコンセプトである「おかげ様」の気持ちというのは、どこでも共通することだと思う。観光客に感謝の気持ちを持ちながら、それを原動力にまちづくりを進めることこそが重要だと気づいた。
- ・講演の後に実際におかげ横丁を歩いてみて、銀行やコンビニエンスストアまで外観を揃えるなど、徹底された景観づくりに驚いた。まちづくりについての強い信念やリーダーシップがないとここまでまちづくりはできないと思う。
- ・新しい商品の導入には、品質の審査だけではなく、おかげ横丁の雰囲気合っているかまで考えていることに驚いた。資金もちろん必要だが、それを使う側の信念や、リーダーシップの大切さを改めて感じた。

2 大学と地域の連携についての意見交換

- ・皇學館大学の学生が、社会人に臆することなく、自分の意見を述べるができるのは、自分たちの活動に自身を持っている証だと思う。自分も同じ学生として、皇學館大学生に負けないように、今後の活動を頑張っていきたい。
- ・学生ならではの視点や考え方が感じられ、1日目とは違う三重県の若者の意見を聞くことができ、とても新鮮だった。
- ・自分の活動の中で大学生と関わるが多いため、現役の大学生の商店街に対する思いや考えを聞くことができ、とても貴重な場となった。学生と地域が連携することによって生じる課題は、コミュニケーション不足から生じているものが多いと感じたので、今後の活動に生かしていきたい。

[全体を通して]

1 感想・反省点など

- ・外宮や内宮の門前町を見て、まちづくりにおいても、ただ新しいものを作るだけではなく、伝統を大切に、歴史を感じられるようにすることで、色あせない新しさを作ることができると思った。
- ・さまざまな活動をしている若者の話を聞くことができ、今後の自分の活動に対するモチベーションが上がり、新たな活動を始めようという刺激を受けることができた。

- ・私は今特に活動しているわけではないが、今回の交流事業をきっかけに、より自分の住んでいる地域に興味を持ち、何らかの活動に参加したいと思った。また、続けることが大事だと分かったので、単発的ではなく、できる限り続けられる何かをしたい。

2 今後自分の活動に活かせるポイント

- ・副知事から「他人任せにせず、自分から改革を行っていかねばいけない」という言葉してもらい、自分ができるところから一歩でも踏み出してみようと思った。この熱い思いを、地域の活性化につなげていきたい。
- ・講師の山本氏と橋川氏の共通点は、自分の地域の伝統や歴史に誇りをもっていて「伊勢マニア」であることだと思う。今後は自分の地域について知る機会を積極的に求め、自分の感じたことを人に語るようになっていきたい。
- ・この事業を通じて、伊勢の「おかげ様」「神恩感謝」という精神性について触れることができた。地域資源と聞くと、何らかの形をもつものという考えを持っていたが、このような精神性にも、その土地の特徴が表れていることを気づくことができた。今後は、それぞれの土地の精神風土にも着目して活動していきたい。
- ・さまざまな地域で活動している若者とつながりを持つことができ、とても貴重な経験をすることができた。普段の活動だけでは出会えない人達とつながることができたので、これを今後の活動にも生かしていきたい。